東海スポーツ傷害研究会会誌：Vol.32 (Nov.2014)

足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療の効果

浜松医科大学　整形外科
花田　充　　小山博史　　松山幸弘
協立十全病院　関節センター
高橋正哲

本研究では，難治性足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療 (extracorporeal shock wave therapy: ESWT) の効果について検討した．対象は，難治性足底腱膜炎に対して ESWT を施行した 41 例 44 足（男性 23 例 24 足，女性 18 例 20足），平均年齢 53.2 歳とした．運動（歩行）時痛と圧痛を ESWT 施行前と最終観察時においてvisual analog scale (VAS) を用いて測定した．症例を社会人や大学など高いレベルでスポーツを行っている群 (7 例 7 足；S 群)，レクリエーションレベルの運動を行っている群 (15 例 17 足；R 群)，特にスポーツを行っていない群 (19 例 20 足；A 群) の 3 群と，疼痛部位が足底腱膜踵骨付着部か体部かの 2 群に分けて比較，検討した．結果は，運動（歩行）時 VAS と圧痛 VAS は，いずれも ESWT 施行前に比較して最終観察時で全群において有意に改善した．運動（歩行）時痛の最終観察時における VAS 改善率は，S 群で平均 83.0%,R 群で平均 69.1%,A 群で平均 47.2%であり，S 群は A 群に比較して有意に高値であった．圧痛の VAS 改善率は，S群で平均 45.7%，R群で平均 64.1%，A 群で平均 35.3% であり，R 群は A群に比較して有意に高値であった．疼痛部位に関して，運動（歩行）時痛が足底腱膜体部にある群の最終観察時における VAS 改善率は平均 17.5% で，疼痛が足底腱膜踵骨付着部にある群の平均 VAS 改善率 55.8% に比較して有意に低値であった．以上より，足底腱膜炎に対して ESWT は有効な治療法となりえる．特に若年者のスポーツにおける疼痛には効果的であるが，高齢で日常生活レベルでの疼痛を有する症例や，疼痛を足底腱膜体部に有する症例では効果が少ない可能性があり，注意を要する．